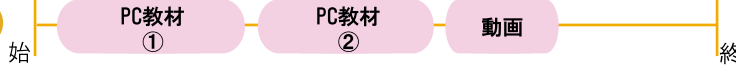


教師説明型



岡崎市立美川中学校
川本 祐二

実践テーマ

商品の価格はどのように決まるのか考えよう。

授業の進め方、デジタルテレビ等活用の仕方

導入：「イチゴ」や「学習課題」の提示では具体物や板書を用い、デジタル教材の方が適している場面で電子黒板を活用した。
 展開：グラフを書く作業では、代表生徒に電子黒板上にグラフを書かせ、理解の共有化を図った。
 まとめ：ハイビジョンクリップは、50インチの画面でも美しく、教室の一番後ろの生徒でもはっきりと視聴することができた。

本時の展開

主な学習活動		
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	イチゴの価格を予想する。 学習課題をつかむ。	●実物（イチゴ）
展開	メロンの出荷量と価格の関係をグラフ化する（PC教材①）。 需要曲線と供給曲線をかく（PC教材②）。 均衡価格の決まり方を理解する。	●自作PC教材 プレゼンテーションソフト （アニメーション機能）
まとめ	ハイビジョンクリップ「市場とは」を視聴する（動画）。 本時のキーワードを振り返り、まとめる。	●ハイビジョンクリップ「 市場とは」



プレゼンテーションソフトのアニメーション機能を活用



ハイビジョンクリップ「市場とは」を視聴

生徒の反応・効果

- ・教科書にある図だけでは理解しづらい需要と供給の関係や均衡価格の決まり方を、よく理解できたことが授業日記から伝わってきた。特に生徒自身が電子黒板を操作する場面では、生徒の視線がしっかり向けられ、学び合いによる理解の深まりが感じられた。
- ・また、プレゼンテーションソフトのアニメーション機能やハイビジョンクリップなどの動きのある教材も、「分かりやすかった」という生徒の反応が得られた。

活用のポイント

- ・本授業の最大のポイントは、需要量と供給量の意味を理解し、両者の関係から均衡価格が決定するプロセスをしっかりと理解させることにあった。そこで、プレゼンテーションソフトを用いて視覚的にとらえさせることを心がけた。まず、需要曲線はどのようにして右下がりなのか、あるいは供給曲線はどのようにして右上がりなのか、その理解だけでつまずく生徒も多い。生徒に身近なカードを例にとり、数量と価格の関係を図示した。その際、生徒を指名して電子黒板上に線をかかせて生徒間で理解の共有化を図った。
- ・次に、需要曲線と供給曲線が交わる点が均衡価格であることを示すために、アニメーション機能を用いた。動きがあることによって、均衡価格が生まれるプロセスを分かりやすく提示できた。
- ・最後にハイビジョンクリップを視聴させて、市場経済のしくみや需要と供給のまとめを理解させた。青果市場で行われているせり取引のハイビジョン映像を通して、実際に市場価格が決まる場面の臨場感を伝えることができた。